

## 進捗状況の概要【1ページ】

平成 23 (2011) 年に策定した立命館学園の中期計画「未来をつくる R2020」は、学園の将来ビジョンの核を成すモットーとして“**Creating a Future Beyond Borders**”の語を掲げた。さらに、上記計画の後半期(2016～2020 年度)計画では、「グローバル・イニシアティブの推進」を、取り組むべき主要諸課題の全体を貫く軸と位置づけた。立命館大学における SGU 事業はその最も重要な部分を成す。構想調書で掲げた諸目標の達成に向けたこれまでの取り組みの概要は下記の通りである。

### 1. 全学的な推進体制の整備及び事業の自立化に向けた予算措置

○平成 26 (2014) 年 10 月に、学長(総長)を本部長とし、理事長を含む法人役員、全学部の学部長ならびに諸部局の部次長など、大学の中枢メンバーすべてから成る「立命館大学グローバル・イニシアティブ推進本部」を設置した。これまでに 10 回の推進本部会議を開催し、さらに幹事会での議論、そして SGU 担当事務局の日常的な業務を支柱として、SGU 構想調書で掲げた諸目標の達成に向けた取り組みを進めてきた。

○学外の有識者 4 人から成るグローバル・イニシアティブ外部評価委員会を立ち上げ、平成 28 (2016) 年 10 月に評価を受けた。SGU 中間評価にあわせて、平成 29 (2017) 年に再度、外部評価を受ける。

○上記「R2020」の後半期計画において、グローバル・イニシアティブ推進のための政策予算枠の措置を決定した。

### 2. 海外諸大学との共同・連携による学士課程設置構想の具体化

①大連理工大学ー立命館大学国際情報ソフトウェア学部：両大学の共同運営学部

②国際関係学部国際連携学科：アメリカン大学との共同学位(ジョイント・ディグリー)プログラム

③食マネジメント学部：イタリア食科学大学やル・コルドン・ブルーと連携する「食」の総合学部

④グローバル教養学部：オーストラリア国立大学との共同学士課程(ダブル・ディグリー)プログラム

### 3. 国際連携の上立つアクティブ・ラーニングの実践

①キャンパス・アジア・プログラム：日中韓 3 大学の共同プログラム。

②AIMS プログラム(国際 PBL によるイノベーション育成)：インドネシア 3 大学、タイ 3 大学との共同事業

③RiSE I=J Project(産学国際協働 PBL による南アジアの異文化・多様性社会の中で活躍できる高度理工系人材の育成)：インド工科大学ハイデラバード校等との共同事業

④EDGE+R(イノベーション・アーキテクト養成プログラム)：グローバル・アントレプレナー育成をめざす文理融合型プログラム。

⑤「みらい塾」：グローバル IT 人材育成リーディングプログラム。

⑥Asian Community Leadership Program：日韓台 3 大学の共同プログラム。

### 4. 立命館大学アジア・日本研究所の設置

○アジア研究・日本研究の拠点として、標記研究所を平成 27 (2015) 年 12 月に設置した。

### 5. 新規の海外拠点(中国、ベトナム)の開設、国際協力事業を通じた新たな展開

○カナダ、英国、インドに加え、中国・北京、ベトナム・ハノイに海外事務所を開設。平成 29 (2017) 年中に事務所を整備し、職員を派遣する。

○エジプト日本科学技術大学(E-JUST)の事務業務支援の受託決定に伴い、エジプトへの職員常駐を決定。

### 6. SGU 目標の進捗(平成 25 年度⇒平成 28 年度)

○外国人留学生の受入(通年) 【H25】 2,242 人 ⇒ 【H28】 3,297 人 (147%)

○協定に基づく派遣日本人学生数(通年) 【H25】 1,244 人 ⇒ 【H28】 1,856 人 (149%)

○外国語による授業科目数(通年) 【H25】 580 科目 ⇒ 【H28】 855 科目 (147%)

○外国語のみで卒業できるコース在籍者数 【H25】 342 人 ⇒ 【H28】 537 人 (157%)

○学生の語学レベル(CEFR B1/学部生) 【H25】 7,607 人 ⇒ 【H28】 8,178 人 (108%)

## 特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】

## 1. 海外大学との共同・連携による学士課程（学部・学科）の開設

## (1) 大連理工大学－立命館大学国際情報ソフトウェア学部

標記学部を大連理工大学内に開設した（平成 26（2014）年 9 月）。日中の大学による学部の共同設立・運営は日本で初、中国でも国立大学では初めての先導的な試みである。入学定員 100 名の内 40 名が 3 年次に本学情報理工学部へ転入学し、4 年間で両大学の学位を取得することができる。

## (2) アメリカン大学とのジョイント・ディグリー学科（国際関係学部国際連携学科）

アメリカン大学 School of International Service との共同学位（ジョイント・ディグリー）取得が可能な新学科＝国際連携学科を国際関係学部開設する。学士課程レベルでのジョイント・ディグリー学科は日本初。学生は在学中 2 年間、ワシントン D.C. のアメリカン大学で学び、立命館大学とアメリカン大学の共同学位を取得する（授業はすべて英語で実施）。入学定員は 25 名。平成 30（2018）年 4 月の開設をめざし、平成 29（2017）年 3 月、文部科学省に設置認可の申請を行った。

## (3) 食マネジメント学部

「食」に関するマネジメント、カルチャー、テクノロジーの三つの領域を総合的に学ぶ食マネジメント学部の開設。イタリア食科学大学やル・コルドンブルー（世界的に知られた料理の専門教育機関）と連携し、食の分野でグローバルに活躍できる人材を養成する。入学定員は 320 名。平成 30（2018）年 4 月開設をめざし、文部科学省への届出にかかわる事前相談書類提出中。

## (4) オーストラリア国立大学（ANU）とのダブル・ディグリーを核とする「グローバル教養学部」

ANU と立命館、二つの大学の学位（ダブル・ディグリー）を取得できる新学部＝グローバル教養学部の開設。上の国際連携学科同様、学士課程レベルでのダブル・ディグリー学部は日本初である。学生は在学中 1 年間、オーストラリア・キャンベラの ANU で学ぶ。さらに、ANU の教員が立命館に常駐して授業を行う。両大学が一体となって教育を行う、国際的な教学システムが展開される（授業はすべて英語で実施）。入学定員は 100 名。平成 31（2019）年 4 月の開設をめざし、現在文部科学省への申請準備中。

## 2. 国際連携の上に立つアクティブ・ラーニング・プログラム

(1) キャンパス・アジア・プログラム：日中韓 3 大学の共同事業。各大学の学生（各 20 名）が、2・3 回生時の 2 年間、半期ずつ 3 大学のキャンパスを移動しながら、東アジアの諸問題について共に学ぶ「移動キャンパス」。学生は、3ヶ国語を習得する。

## (2) 海外の諸大学等と連携した PBL（問題解決型学習）プログラム

○AIMS プログラム（国際 PBL によるイノベーション育成プログラム）：インドネシア 3 大学、タイ 3 大学と本学との共同事業。双方の学生が半期留学し、ASEAN 諸国が抱える諸問題について共に学び、議論する。本学からは毎年 20～25 名の学生が派遣されている。使用言語は英語。

○RiSE I=J Project（産学国際協働 PBL による南アジアの異文化・多様性社会の中で活躍できる高度理工系人材の育成）：本学理工系 3 学部とインド 3 大学との共同事業。両国の学生がチームを組んで、インドの抱える諸問題の解決に取り組む。日印両国でフィールドワークを実施。使用言語は英語。

○EDGE+R（イノベーション・アーキテクト養成プログラム）：国内外（海外はアメリカとインド）の企業・諸大学と連携した文理融合型プログラム。学部の垣根を越えて学生がチームを組み、それぞれが自ら定めたテーマに即してミーティング・現地調査・企業訪問・プロトタイプ作成などを行う。

## 3. その他

(1) RPG (Ritsumeikan Project in Globalization)：海外での学習に対する学生の関心を喚起すべく、「船出＝冒険の旅」をイメージしたロールプレイング・ゲーム風のウェブサイトを開設した。留学プログラムなど各種情報を提供するサイトに学生を導くゲート。

(2) Beyond Borders Plaza：京都・滋賀・大阪の各キャンパスに、国内学生・国際学生の交流および外国語学習の拠点となる施設＝Beyond Borders Plaza (BBP) を開設することを決定した。